

第23回日本国際工作機械見本市（JIMTOF2006）見学参加報告書

実習工場班 佐藤 宏・中川 秀則

1. はじめに

第23回日本国際工作機械見本市が11月1日(水)~8日(水)に東京ビッグサイトで日本工作機械工業会主催のもと開催され、6日(月)に見学参加したので報告します。

2. 概要

JIMTOF(日本国際工作機械見本市)は、2年に一度開催されるアジア圏最大規模の工作機械見本市で、その広大な展示規模、最先端の展示内容から世界的にも高い注目を集めている展示会である。ものづくりの基盤技術を支える工作機械および周辺機器が今回は「モノづくり、人づくり、夢づくり」のテーマで東京ビッグサイト全館を使用して展示されている。

3. 内容

参加国11カ国、約550社・団体の展示紹介、汎用旋盤実演展示、大学や公的機関による研究成果のニューテクノロジーポスター展など大規模な展示・企画が行われていた。

具体的出展内容としては会場の多くの規模を占める工作機械メーカは5軸を中心とした切削数値制御機械や特殊なものでレーザおよび放電加工機、これらの安全性・生産性・精度向上を謳ってるものが多く見られた。また周辺機器メーカやCAMも見受けられた。

技能五輪上位入賞者による汎用旋盤実演はその卓越した匠の技で入場者の関心を集めていた。

4. 所感

技能五輪ユニバーサル大会が来年沼津で開催されることもあり上位入賞者による加工実演は競技内容を知る上でも関心があり、また実際にその技術を目にするとモノづくりの技能の高さに驚き良い刺激になった。

CAD・CAMのブースでは、人材育成事業で使用するMASTERCAMの操作について、直接メーカの人に疑問点等を教えてもらうことができ大変参考になった。

工作機械メーカはCNC操作盤の改良が新たに見受けられるようになり、工具メーカ等も高速切削、工具寿命向上など日々技術革新し競合している様子を感じた。

平日にもかかわらず来場者が多く、業界の展示会への関心の高さも伺い知ることとなった。

機構本部からの設備に関する問い合わせの項目で提案した、レーザー加工機や3次元測定器など、実機を見ることができ参考になった。